

平成24年度

宮城県宮城野高等学校

# 学校評価資料

実施日：平成24年10月9日（火）

アンケート対象：生徒・保護者・教職員

回収数(回収率)：生徒 785名 (94%)

保護者 707名 (85%)

教職員 71名 (100%)

## <資料>

1. 学校評価における「生徒・保護者共通アンケート調査」実施要項（高校教育課）
2. 平成24年度宮城野高等学校「教育目標・方針・重点目標」
3. 平成24年度「学校評価」アンケート集計結果
  - ①生徒：1年次女子・同男子・2年次女子・同男子・3年次女子・同男子・生徒全体
  - ②保護者（1～3年次合計）
  - ③教職員
4. 教職員・生徒・保護者の三者から見た各評価項目の集計結果と分析
5. 自由記述に関する分析

# 1. 学校評価における「生徒・保護者共通アンケート調査」実施要項

平成24年7月12日  
高 校 教 育 課

## 1 目的

各学校で実施している学校評価における「生徒・保護者アンケート」調査に、各学校共通項目を導入し、学校評価に客観性を持たせるとともに、学校と県教育委員会が情報を共有し、各学校の経営改善と県教育委員会の施策推進に役立てる。

## 2 共通項目の基本的な考え方

- (1) 各学校にとって、今後の学校経営改善に生きる項目とする。
- (2) 県教育委員会の施策に反映できる項目とする。

## 3 具体の共通項目・・・12項目

### <生徒用>

- (1) 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている (学習指導)
- (2) 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている (生徒指導)
- (3) 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている (進路指導)
- (4) 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている (教育相談)
- (5) 学校として、部活動は活発に行われている (部活動)
- (6) 学校として、生徒会活動は活発に行われている (生徒会活動)
- (7) 自分にとって、有意義な学校行事がある (学校行事)
- (8) 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる (特色ある学校づくり)
- (9) 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている (防災教育)
- (10) 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている (開かれた学校づくり)
- (11) 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている (施設整備)
- (12) 自分にとって、学校生活は充実している (総合満足度)

### <保護者用>

- (1) お子さんの学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている (学習指導)
- (2) 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている (生徒指導)
- (3) お子さんの進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている (進路指導)
- (4) 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている (教育相談)
- (5) 学校として、部活動は活発に行われている (部活動)
- (6) 学校として、生徒会活動は活発に行われている (生徒会活動)
- (7) お子さんにとって、有意義な学校行事がある (学校行事)
- (8) 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる (特色ある学校づくり)
- (9) 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている (防災教育)
- (10) 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている (開かれた学校づくり)
- (11) 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている (施設整備)
- (12) お子さんの学校生活は充実している (総合満足度)

## 4 評価方法

- (1) 全日制、定時制、本分校別に実施する。
- (2) 生徒男子、生徒女子、学年、保護者別に実施する。
- (3) 通信制は提出不要。
- (4) 各学校は、共通項目ごとに「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の実数について集計する。

## 5 県教育委員会への報告について

学校評価における「生徒・保護者共通アンケート調査」の結果報告は、所定の集計用紙（添付の別紙様式）により高校教育課担当あて電子データで報告する。

## 2. 平成24年度宮城野高等学校「教育目標・方針・重点目標」

### 1 学校の基本的性格

改革のテーマ 「宮城野・・・ここでは一人ひとりが輝きます」

本校は、宮城県高等学校教育改革のパイロットスクールとして平成7年4月に創設された。上記「改革のテーマ」のもとに、教育の全分野について、常に新しい改革実践に取り組み続け、研究の成果を内外に発信している。

### 2 教育目標

#### (1) 自己教育力と自由

創造的自由の精神を重んじ、生徒自らが主体的に課題を発見し、解決する能力を身に付けて行くことができるよう支援する。

#### (2) 個性尊重と自己管理

自己管理と自立へ向かう意志力を育て、生徒一人ひとりに内在する個性や可能性が十分に発揮されるよう支援する。

#### (3) 高い目標と努力

自らの意志で高い目標を掲げ、発見への志向と視野の拡大を図り、自己実現を目指して努力することができるよう支援する。

#### (4) 共生と奉仕

社会性を身に付け、多様な個性とも協調しながら、全体の調和を重んじ、福祉の向上に貢献できるよう支援する。

### 3 教育方針

#### (1) 進路目標の達成

生徒がそれぞれの個性を生かし、自己の興味、関心、適性を認識して進路目標を設定し、主体的な学習を進めながら、自己実現を果たすことができるよう支援する。

#### (2) 自己教育力の強化

生徒が自ら課題を発見し、考え、判断し、行動する力を身に付け、豊かな情操、科学する心、スポーツを愛好する心などを磨き、自分を高めていけるよう支援する。

#### (3) 変化への対応能力の形成

国際化、情報化など、社会の様々な変化に主体的に対応し、異文化と共生する柔軟な発想や力量を養い、他と協同して人類福祉の向上に貢献できるよう支援する。

### 4 平成24年度の重点目標

#### (1) スクール・アイデンティティの共通理解と具体的実践

スクール・アイデンティティを教育活動の基本に据え、各分野での実践にその趣旨を生かすとともに、校外に強力に発信する。

#### (2) 学習指導の充実

基礎基本の定着と発展的な学習への取り組みを積極的に支援する。

#### (3) 生徒指導の推進

基本的生活習慣の定着と生徒の主体性育成を積極的に支援する。

#### (4) 進路指導の展開

志教育の視点を重視し、キャリア教育を推進するとともに、希望進路の達成のために積極的に支援する。

### 3. 平成24年度「学校評価」アンケート集計結果（割合％）

#### 宮城野高校アンケート調査項目

##### <生徒用>

- (1) 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている（学習指導）
- (2) 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている（生徒指導）
- (3) 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている（進路指導）
- (4) 「ボランティア・産業社会と人間・プロジェクトデイ」の授業は進路を考える上で役立っている（総合的な学習の時間）
- (5) 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている（教育相談）
- (6) 学校として、サークル活動や校内ボランティア活動は活発に行われている（サークル・ボランティア活動）
- (7) 自分にとって、有意義な学校行事がある（学校行事）
- (8) 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる（特色ある学校づくり）
- (9) 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている（防災教育）
- (10) 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている（開かれた学校づくり）
- (11) 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている（施設整備）
- (12) 自分にとって、学校生活は充実している（総合満足度）
- (13) 家庭学習（放課後も含む）はほぼ毎日2時間である（家庭学習）
- (14) 授業で配付されるシラバスは、学習に役立っている（シラバス）

##### <保護者用>

- (1) お子さんの学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている（学習指導）
- (2) 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている（生徒指導）
- (3) お子さんの進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている（進路指導）
- (4) 生徒にとって、「ボランティア・産業社会と人間・プロジェクトデイ」の授業は進路を考える上で役立っている（総合的な学習の時間）
- (5) 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている（教育相談）
- (6) 学校として、サークル活動や校内ボランティア活動は活発に行われている（サークル・ボランティア活動）
- (7) お子さんにとって、有意義な学校行事がある（学校行事）
- (8) 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる（特色ある学校づくり）
- (9) 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている（防災教育）
- (10) 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている（開かれた学校づくり）
- (11) 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている（施設整備）
- (12) お子さんの学校生活は充実している（総合満足度）
- (13) お子さんの家庭学習時間（放課後も含む）は、ほぼ毎日2時間以上である（家庭学習）

##### <教職員用>

- (1) 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている（学習指導）
- (2) 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている（生徒指導）
- (3) 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている（進路指導）
- (4) 「ボランティア・産業社会と人間・プロジェクトデイ」の授業は進路を考える上で役立っている（総合的な学習の時間）
- (5) 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている（教育相談）
- (6) 学校として、サークル活動や校内ボランティア活動は活発に行われている（サークル・ボランティア活動）
- (7) 生徒にとって、有意義な学校行事がある（学校行事）
- (8) 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる（特色ある学校づくり）
- (9) 生徒・保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている（防災教育）
- (10) 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている（開かれた学校づくり）
- (11) 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている（施設整備）
- (12) 生徒にとって、学校生活は充実している（総合満足度）
- (13) 生徒の家庭学習時間（放課後も含む）はほぼ毎日2時間以上である（家庭学習）
- (14) 授業で配付するシラバスは、学習に役立っている（シラバス）

\* (4) (6) (13) (14)は本校独自の調査項目である

## アンケート集計結果

「1:よく当てはまる」「2:だいたい当てはまる」

「3:あまり当てはまらない」「4:当てはまらない」

1年女子	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1	34	32	42	80	47	74	95	30	59	53	118	82	11	23
2	117	90	110	76	104	67	59	87	89	104	54	70	43	95
3	23	49	20	15	21	28	14	50	26	17	3	17	62	48
4	3	6	4	6	5	8	9	10	3	3	2	6	61	11
計	177	177	176	177	177	177	177	177	177	177	177	175	177	177
1年男子	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1	18	17	27	34	16	33	43	16	24	25	52	35	6	7
2	58	48	49	39	59	41	38	41	46	48	35	44	17	46
3	13	22	13	17	12	15	7	27	17	15	2	9	32	32
4	1	3	1	0	3	1	2	6	2	2	1	2	35	5
計	90	90	90	90	90	90	90	90	89	90	90	90	90	90
2年女子	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1	28	15	41	39	38	58	85	23	52	41	108	76	25	25
2	134	74	123	110	114	92	83	85	110	120	75	94	64	102
3	25	86	25	32	33	32	17	70	25	27	7	13	64	49
4	2	15	1	9	4	8	4	11	2	2	0	7	37	14
計	189	190	190	190	189	190	189	189	189	190	190	190	190	190
2年男子	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1	11	3	10	10	15	13	18	7	18	12	30	15	8	11
2	39	25	40	28	28	28	29	25	31	40	28	33	19	25
3	8	27	9	15	16	16	9	23	10	6	1	10	18	17
4	5	8	4	10	4	6	7	8	4	5	3	4	18	10
計	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	62	62	63	63
3年女子	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1	29	16	58	89	59	79	117	30	76	55	132	106	93	25
2	127	62	107	67	93	78	58	85	92	106	50	64	40	78
3	28	85	18	24	31	20	8	48	17	21	1	13	33	59
4	1	22	2	5	2	8	1	22	0	3	2	2	19	23
計	185	185	185	185	185	185	184	185	185	185	185	185	185	185
3年男子	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1	23	11	33	30	24	36	44	17	31	29	56	46	47	11
2	47	37	40	37	46	31	30	34	43	42	20	27	16	30
3	9	20	4	9	7	12	4	25	5	7	4	4	8	26
4	1	11	3	4	2	1	2	4	1	2	0	2	9	13
計	80	79	80	80	79	80	80	80	80	80	80	79	80	80
全生徒	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1	143	94	211	282	199	293	402	123	260	215	496	361	190	102
2	522	336	469	357	444	337	297	357	411	460	262	332	199	376
3	106	289	89	112	120	123	59	243	100	93	18	66	217	231
4	13	65	15	34	20	32	25	61	12	17	8	23	179	76
計	784	784	784	785	783	785	783	784	783	785	784	782	785	785
保護者	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	
1	129	65	157	201	175	249	318	104	191	160	287	322	179	
2	487	392	422	400	431	324	332	345	346	394	387	328	212	
3	79	216	112	94	90	114	43	230	140	124	33	47	177	
4	11	33	15	11	10	19	14	27	29	28	0	9	139	
計	706	706	706	706	706	706	707	706	706	706	707	706	707	
教職員	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1	11	6	18	27	27	13	26	8	20	17	38	13	4	5
2	57	34	45	29	39	35	36	32	43	45	29	51	21	36
3	3	21	8	13	4	19	7	26	8	9	4	7	33	21
4	0	10	0	2	1	4	2	5	0	0	0	0	13	9
計	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71	71

## 平成24年度学校評価アンケート集計結果

調査対象: 本校生徒・保護者・教職員

実施日: 平成24年10月9日(火)

回答率: 生徒 785/835(94%) 保護者 707/835(85%) 教職員 71/71(100%)

\*昨年度はそれぞれ、94%・81%・100%

### 教職員・生徒・保護者の三者から見た各評価項目の集計結果

平成24年12月20(木)学校評価委員会

#### はじめに

宮城県教育委員会で定めた「生徒・保護者共通アンケート(12項目)」を使用するようになって4年目になります。

本校には部活動がなく、生徒会活動をボランティア活動として実施しているところから、部活動及び生徒会活動に関する質問については「フロンティアタイム・産業社会と人間・プロジェクトスタディの効果」と「サークル活動・ボランティア活動の状況」に関する質問に差し替えて実施しています。これは昨年度と同様です。学校関係者評価委員会の意向を踏まえて、今年度は「特色ある学校づくり」に関する質問文の改訂について検討しましたが、県全体共通アンケートとしての実施意図を尊重して、これは見送ることとしました。

また、家庭学習時間と個別授業評価に関する調査を独自に実施してきましたが、昨年度から、生徒アンケートによる個別授業評価は12月に1回、総括的に実施することとしました。これによって、個別授業評価の効果に関する質問が10月時点では実施できなくなったため、代わってシラバスの効果について質問しています。

過去2年間の本校と県全体のアンケート結果を比較して、本校の課題を探りました。

#### 1〔学習指導〕

「生徒にとって(お子さんの)、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」

	教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H24:	96%	85%	87%	〔肯定的割合〕		
H23:	88%	81%	83%	〔肯定的割合〕	72%	82%
H22:	93%	79%	85%	〔肯定的割合〕	70%	82%

《分析》もともと数値の高い項目です。昨年度は、教職員・保護者とも肯定的割合が低下し、改善すべき課題と捉えましたが、今年度は三者とも評価が回復しました。ただ、自由記述欄にも「授業担当者によって差がある」という指摘を始め、多くの意見が寄せられました。12月には統一的に個別授業評価アンケートを実施して個々に改善を図ります。また、今年度から、各教科で授業を公開すると同時に教科検討会を開くこととしました。日々の授業を実践の柱とする本校としては、生徒の学力伸長はもちろん、高校生活の基軸をしっかりとさせるためにも、引き続き授業改善に努める覚悟です。

#### 2〔生徒指導〕

「生徒にとって(生徒に対して)挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている」

	教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H24:	56%	55%	65%	〔肯定的割合〕		
H23:	50%	50%	61%	〔肯定的割合〕	79%	83%
H22:	43%	56%	64%	〔肯定的割合〕	78%	83%

《分析》他の項目に比べて肯定的割合が目立って低い項目で、本校の重点課題として、昨年度から教員の側からの挨拶を始め、学校全体としてマナー指導に取り組んでいます。当然の社会的なマナーが実践できていないことは本校の大きな課題であると昨年度も書きました。「挨拶」などは教員側から意識して働きかけを増やしており、教員の肯定的割合の上昇はその表れだと考えられますが、「先生が挨拶を返してくれなくて悲しい」等の自由記述も見られ、効果不十分という結果だと考えます。校則のあるなしにかかわらず、大人としての当然のマナーを実践するよう指導します。

### 3[進路指導]

「生徒にとって(お子さんの)進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」

	教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H24:	89%	87%	82%	[肯定的割合]		
H23:	90%	85%	84%	[肯定的割合]	80%	82%
H22:	87%	82%	84%	[肯定的割合]	79%	81%

《分析》進学校としてはもっと高い評価をめざしたいと考えています。昨年度から将来構想委員会を発足し、宮城野高校の3年間を見通した指導プランを策定し、成果を検証しながら肉付けをしていく予定です。次項4で尋ねている本校独自のキャリア教育と、進路指導部と各年次を中心とする進路ガイダンスや面談を指導の両輪として、他校にない豊かな進路指導が実現できるようにさらに研究を続けます。

### 4[総合的な学習の時間]

\*校内での調査項目

「(生徒にとって)『フロンティアタイム・産業社会と人間・プロジェクトスタディ』の授業は進路を考える上で役立っている」

	教職員	生徒	保護者	(生徒年次別)	1年次	2年次	3年次
H24:	79%	81%	85%	[肯定的割合]	86%	74%	84%
H23:	80%	77%	87%	[肯定的割合]	82%	78%	72%
H22:	77%	72%	85%	[肯定的割合]	82%	67%	67%

《分析》本校独自の調査項目です。生徒の肯定的評価が全体として上昇しています。年次別には3年次PS・FTⅢへの肯定的評価が影響していると考えられます。2年次の肯定的割合のポイントが昨年度よりもやや低いところを継続課題と捉えたいと思います。

将来につながる豊かな学力を身につけさせることをめざす、本校にとって大切な教育活動ですから、生徒自身が手応えを感じられるよう指導内容を精査して改善を重ねます。

### 5[教育相談]

「生徒に対して(生徒にとって)教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている」

	教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H24:	93%	82%	86%	[肯定的割合]		
H23:	96%	83%	86%	[肯定的割合]	76%	82%
H22:	94%	74%	86%	[肯定的割合]	73%	81%

《分析》昨年度とほぼ同様の結果と捉えています。自由記述欄に教員の個別相談への感謝の言葉も見られました。また、東日本大震災後の緊急支援の予算枠を使って、スクールカウンセラーの相談時間の枠を拡張しています。昨年度からの継続事業です。相談件数自体は昨年度から増えて有効に活用されていると考えています。

### 6[サークル・ボランティア活動]

\*校内での調査項目

「学校として、サークル活動や校内ボランティアは活発に行われている」

	教職員	生徒	保護者	
H24:	68%	80%	81%	[肯定的割合]
H23:	67%	85%	79%	[肯定的割合]
H22:	79%	87%	79%	[肯定的割合]

《分析》本校独自の調査項目で、肯定的割合の減少傾向が続いています。とくに、昨年度は教職員の肯定的割合が10ポイント以上低下し、今年度は生徒の肯定的割合が5ポイント低下しました。自由記述を見ると、保護者のみなさんの肯定的評価は校内ボランティアについてのものだと考えています。課題は放課後のサークル活動です。サークル活動の活性化について生徒自身も問題と捉えた結果が5ポイントのマイナスと捉え、部活動に代わる放課後の自主的な活動としてスタートしたサークル活動の可能性について生徒指導部を中心に生徒も含めて改善を図ります。

## 7[学校行事]

「自分にとって(お子さんにとって・生徒にとって)有意義な学校行事がある」

教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H24: 87%	89%	92%	[肯定的割合]		
H23: 93%	87%	90%	[肯定的割合]	77%	86%
H22: 90%	86%	90%	[肯定的割合]	75%	85%

《分析》肯定的割合が高い項目です。昨年度と同様に県全体の平均に比べて、生徒で12ポイント、保護者6ポイント高くなっています。体育的行事や文化的行事を中心に校内ボランティアによる行事運営が成功していると考えています。

## 8[特色ある学校づくり]

「学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」

教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H24: 56%	61%	64%	[肯定的割合]		
H23: 46%	60%	61%	[肯定的割合]	67%	79%
H22: 51%	57%	60%	[肯定的割合]	66%	76%

《分析》項目2「生徒指導」と並んで県平均に比べて肯定的割合が低い項目です。

しかし、「地域や伝統に根ざさないところが宮城野の特色」という生徒の意見が昨年度ありました。項目4や項目6のような本校独自の取り組みは「地域や伝統などに根ざした」という条件には該当しません。そのため、学校関係者評価委員会でも話題になり、県教委の担当とも相談しましたが、共通アンケートの趣旨を尊重して文言の訂正はしないこととしました。ですから、宮城野高校としてはこの数値は経年変化を見るだけのもので、これで捉えきれない特色を項目4や項目6で測定できると考えています。

いずれにしても、他の県立高校に負けない宮城野高校固有の「特色」について、地域社会や他校から承認される実績を重ねて、特色ある学校としてアピールして行きたいと考えています。

## 9[防災教育]

「生徒に対して(保護者・生徒に対して)、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている」

教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H24: 89%	86%	76%	[肯定的割合]		
H23: 87%	83%	65%	[肯定的割合]	77%	72%
H22: 86%	79%	73%	[肯定的割合]	71%	63%

《分析》昨年度は台風による臨時休業の連絡方法を巡って多くのご批判をいただきました。学校側の対応が不十分だったと反省して、今年度は緊急連絡がない場合の「自宅待機」等の改善を行いました。この対応を評価する自由記述もありました。今年度は例年以上の肯定的な評価をいただきました。県全体の評価も上がっています。東日本大震災のあと、県全体で取り組んだ結果と考えています。備蓄品の整備・防災計画の見直し等、本校としても防災への取り組みについては引き続き強化しているところです。

## 10[開かれた学校づくり]

「保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている」

教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H24: 87%	86%	78%	[肯定的割合]		
H23: 87%	85%	76%	[肯定的割合]	80%	78%
H22: 92%	80%	80%	[肯定的割合]	79%	78%

《分析》「学校からの通知が保護者の手まで届いていない」というご意見が昨年度と同様自由記述に複数見られました。保護者の肯定的割合は多少改善していますが、公式ホームページの活用その他、家庭での親子のコミュニケーションの在り方や高校生という発達段階も考慮して、適切な情報提供について引き続き検討します。



### 11〔施設設備〕

「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている」

	教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H24:	94%	97%	95%	〔肯定的割合〕		
H23:	96%	94%	95%	〔肯定的割合〕	68%	77%
H22:	93%	90%	94%	〔肯定的割合〕	67%	78%

《分析》本校は県内有数の施設設備を備えており、例年肯定的評価の割合がもっとも高い項目です。自由記述欄に教室のエアコンという要望が散見されました。今年は9月まで猛暑の影響が残り、10月に入り急に寒くなった印象がありました。予算や条例の範囲内で最大限の努力はしますが、着衣による対応等、ご家庭のご協力もお願いいたします。

### 12〔総合満足度〕

「自分にとって(お子さんの・生徒にとって)、学校生活は充実している」

	教職員	生徒	保護者	(県全体の平均値)	生徒	保護者
H24:	90%	89%	92%	〔肯定的割合〕		
H23:	90%	87%	90%	〔肯定的割合〕	78%	88%
H22:	83%	81%	90%	〔肯定的割合〕	78%	88%

《分析》「総合満足度」は学校評価におけるもっとも重要な項目です。県立高校全体平均値で、保護者の肯定的割合がもっとも高いのがこの項目です。学習指導・進路指導・生徒指導その他の各部面で気になることがあっても、総合的には「子どもの高校生活は充実している」と感じている方が多いことが分かります。本校でも現在の評価を維持するよう努力する所存です。

### 13〔家庭学習〕\* 校内での調査項目。

「放課後の学習時間は、ほぼ毎日2時間以上である」

	教職員	生徒	保護者		1年次	2年次	3年次
H24:	35%	50%	55%	〔肯定的割合〕	29%	46%	74%
H23:	32%	50%	51%	〔肯定的割合〕	41%	38%	72%
H22:	21%	48%	47%	〔肯定的割合〕	35%	35%	76%

《分析》美術科が典型ですが、放課後に学校で学習する生徒がいるので、昨年「家庭学習時間」としていた文言を「放課後の学習時間」と改訂して実施しました。全体としては改善していますが、年次別で1年次の肯定的割合の低下が問題です。毎年7月に全県立高校で実施している「学力状況調査」でも、1年次約11%（前年度約30%）と低く、2年次約25%（前年度26%）という結果で、年次集会などで指導してまいりました。7月と10月を比べると1・2年とも改善していますが、それにしても不十分な数値です。年次では面談やホームでの調査を通して実態を把握して、各教科の課題を工夫するなどして改善を図っているところです。

### 14〔シラバス〕 \* 校内での調査項目。

「シラバスは学習に役立っている」

	教職員	生徒	
H24:	58%	62%	〔肯定的割合〕
H23:	40%	52%	〔肯定的割合〕

《分析》シラバスの活用については、教職員・生徒とも大幅に評価が改善しました。昨年度の反省会等を通して、有効に活用するための工夫を各授業担当者が実践した結果だと考えています。授業改善のひとつの大きな要素と考えて、引き続き努力してまいります。

1 教育目標及び教育方針

教育目標	(1) 自己教育力と自由	(2) 個性重視と自己管理	(3) 高い目標と努力	(4) 共生と奉仕
教育方針	(1) 進路目標の達成	(2) 自己教育力の強化	(3) 変化への対応能力の形成	

2 本年度の重点目標

① スクール・アイデンティティの共通理解と具体的実践 スクール・アイデンティティを教育活動の基本に据え、本校将来構想委員会の提言を踏まえて、各分野での実践の質を高め、校外に強力に発信する。 ② 学習指導の充実 基礎基本の定着と発展的な学習への取り組みを積極的に支援する。 ③ 生徒指導の推進 基本的生活習慣の定着と生徒の主体的育成を積極的に支援する。 ④ 進路指導の展開 志教育の視点を重視し、キャリア教育を推進するとともに、希望進路の達成のために積極的に支援する。
---

3 自己評価に対する評価

( A. 達成している B. おおよそ達成している C. あまり達成していない D. 達成していない )  
( 〇. 適切である O. おおよそ適切である △. あまり適切ではない ×. 適切ではない )

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	評価結果	改善策の適切さ
重点目標	① スクール・アイデンティティの共通理解と具体的実践	B	「宮城野高校通信」の発行等を通じて、本校の特色及び3学科の特色についての生徒の理解を深めた。本校将来構想委員会を中心として、継続してスクール・アイデンティティの確立を図る。	A	〇
	② 学習指導の充実	B	各教科毎に授業公開及び授業検討会を行うことで、指導方法の改善につなげたい。また、学外の各種研修会にも積極的に参加し、成果を教科に持ち帰り、教科のチームとしての指導力を向上させ、生徒の学習支援に取り組む。	A	〇
	③ 生徒指導の推進	C	挨拶を始めとするマナー指導に自覚的に取り組み、徐々に改善が見られるが、生徒の主体性や自主性を一層引き出すように、学校行事・学年行事・校内ボランティア活動・サークル活動の振り返りを適時に適切に行う。	A	〇
	④ 進路指導の展開	C	学校評価アンケートでは好評価を得ているが、本校キャリア教育の体系については、各学科の特色づくり及び志教育の視点から引き続き見直し、進路達成に向けて、生徒が主体的に取り組む意欲や態度を育てる体系を構築する。	A	〇
学校関係者評価委員による意見	「宮城野高校らしさ」をもっと前向きに積極的に取り組んでいただきたい。				
学習指導	① 新教育課程の完成と新高校入試の実施、広報活動の充実	B	平成25年度実施される教育課程を踏まえながら、早めに平成26年度の教育課程編成に当たる。その際、各教科・生徒からの視点ばかりでなく、本校の特色の対外的な説明という観点からも検討する。新入試制度を含めた広報活動については、多数の教職員の協力を得て一定の成果を上げることができた。さらに工夫しながら継続をはかりたい。	A	〇
	② 授業内容の精選と学習指導の充実	B	前期・後期各1回・教科での検討会という原則で公開授業を実施し、一定の成果が得られた。来年度もより実のあるものとしていく工夫をしながら各教科で実施する。学校評価の中でのシラバスに対する評価は高まったので、これについても教科ごとに一層の工夫を求めている。	A	〇
	③ 総合的な学習の時間の授業と特別講座の充実	B	様々な大学・学部や職種の講師から話を聞くことにより、生徒が卒業後の世界について、具体的にイメージすることができ、進路選択の幅を広げて考えることができた。普通科、総合学科についてはほぼ体系化できたが、美術科は検討の必要がある。来年度は新たな計画を立案し、実施していきたい。	A	〇
学校関係者評価委員による意見	東日本大震災の教訓をもとに、生の充実につながるリアリティのある学習の工夫をしていただきたい。				
生徒指導	① 基本的生活習慣の確立と自己管理能力の育成	B	基本的生活習慣の確立を目指して、玄関前を中心に公共の場に余計なものを置かないという指導を行った。前・後期、短期間の指導であったが、殆どの生徒は素直に指導に乗り、ロッカーの上や窓際の棚等にも物が置かれなくなった。根底の部分は生徒から気づき改善する方向で進むよう、縦割りLHRや統一テーマLHRで、改善の方向を探った。まだ十分とはいえないので来年度さらに工夫を懲らし、指導を進めたい。	A	〇
	② 校内ボランティアおよびスタッフ活動の充実	B	代表・チーフの生徒を中心に良くまとまり、充実した活動ができた。文化祭は来場者が過去最多であったが、会計処理に非効率な部分が多く、時間がかかりすぎるなどの問題点もあった。生徒指導部の担当者との生徒の代表者との連絡を密にし、連携を強化し、内容・運営面について、教員からも適切な指導・助言を行うことと、会計部門は担当の生徒が事務室と連携を取り、レクチャーを受けるように改めたい。	A	〇
	③ 放課後活動（サークル活動・放課後講座）の活性化と充実	C	年度初めのボランティア活動、サークル所属の複数化などが要因となり、自分の所属するサークルの活動に集中できない様子も見えた。放課後講座については、土曜日の活用も含め、活性化の兆しが見られた。サークル内ミーティングや代表者会議を頻繁に開催していきたい。	A	〇
学校関係者評価委員による意見	宮城野らしさを失わず、一人ひとりの個性に合わせた対応をさらに進めていただきたい。				
進路指導	① 10年後を見据えた進路設計	B	進路ニュースをほぼ定期的に発行した。進路希望調査、講演会、卒業生の話を聞く会、進路の手引の説明、入試動向、センター試験についてなど時にLHRを積極的に活用し、進路意識の向上を図った。情報提供について、さらに研究する必要もある。	A	〇
	② 学ぶ主体の形成(学力の把握、向上)	C	各年次において生徒の学力の把握と今後の対策のために、模擬試験やスタディサポートの結果分析会を実施した。分析結果の活用法や各教科との関わり方、生徒個々の把握については課題がある。進路希望実現のためにはセンター試験で全国平均を上回る学力を身に付けさせたい。	A	〇
	③ 受験の多様化に対応(面接、小論文、総合問題指導の推進)	B	面接や小論文の個別指導に関しては多くの教員が協力し、滞りなく実施することができた。	A	〇
	④ 生徒一人ひとりの能力と適性に見合った進路希望の達成	B	昨年度卒業生(15回生)の大学進学決定率は73.3%で過去3番目、進路達成率は86.4%で過去2番目となり、ともに高い結果となった。来年度も生徒理解(適性)の見極め)に基づく指導を継続していきたい。	A	〇
学校関係者評価委員による意見	今後も引き続き、一人ひとりの希望進路の実現に向けて、きめ細やかな対応をお願いしたい。				
改善策	学校評議員からはきわめて高い評価をいただいたが、重点目標はもちろん、学習指導・生徒指導・進路指導のそれぞれの取り組みをもっと自信を持って力強く進めろという激励だと受け止めている。自習室の充実という具体的な提言もいただいた。学校評価で得られた数値評価に必要以上にとらわれることなく、生徒一人ひとりが輝く、満足感のある学校生活を送ることができるよう一層心がけ、上記それぞれの分野の改善策を粛々と実現していくこととする。				